

# 7月の支笏湖風景

7月に入り気温は一気に上がり20°Cを越える日々が続いてます。

北海道民の私の感覚からすると「夏がやつてきたね」という雰囲気ですが、本州から来られるお客様はしつくりこない様子。

そんなこともあり、7月8月の体験でも「天候によっては肌寒く感じる事があるのに、ウインドブレーカー等の長袖をお持ちください」とアナウンスをしていました。周囲の景色としては、緑の森がますます緑になり、水の中には魚の姿を見る機会が増えました。

浅瀬にはスジエビ・ハナカジカ・コイ・ブラウントラウト・ニジマスと盛りだくさん。7月頭には浅瀬でのウグイの産卵を見ることができ、バタ足をした水面のように、バシャバシヤと水面が動き迫力があります。

そして、今は水温が16度程度ですが、これから徐々に上がってくるので、水草が段々豊富になっていきます。気温より上がるのが遅い水温。水温・水草共に、ピークは9月くらいでしようか。そこに向け徐々に水の中も変化していきます。先日洞爺湖に遊びに行った所、洞爺の水温は18度。

これなら泳げる!と思つてしまつたほど。

洞爺湖最大水深17.9m。支笏湖360m。そんな違いが水温にも影響しているんですね。

洞爺湖最大水深17.9m。支笏湖360m。そんな違いが水温にも影響しているんですね。

洞爺湖最大水深17.9m。支笏湖360m。そんな違いが水温にも影響しているんですね。



「すっごい透明で綺麗ですね!」千歳川を下った人は必ずそういう。  
基本的に下るルートは「第一ウサクマイ橋→スポーツセンター」まで。水量によって注意する箇所が変わる為

概に「ココが注意」とは言えませんが、この川は蛇行が多く、カーブの外側に倒木があるというのが基本的な注意事項。7月は水草が生い茂り、バイカモの花が咲く。年間通して透明度の高い水も魅力のひとつです。

北海道のカヌーといふと有名な釧路川があります。とても綺麗な川ですが、釧路川の源流は屈斜路湖で千歳川の源流は支笏湖。湖の透明度だけを見れば支笏湖の方が透明度が高い為、そこから流れ出す千歳川の方が透明度が高い。ということになります。

それぞれに魅力があり、それぞれが楽しい。

私個人的に釧路川の魅力は「①旅する川」「②ストーリー性」という所。

全長100kmを越える川ですが、ダムが無く、水の上の移動だけで海まで下れる釧路川。

源流部は美しい水と周囲の森に圧倒され、中流域まで下ると濁いでいることに違和感を感じなくなり、下流域に入ると釧路湿原の中をのんびり下れる。そんな小説を書けるようなストーリー性のある川が釧路川です。

千歳川は釧路川と比べても引きをとらない素晴らしい雰囲気と何といっても札幌や苫小牧そして新千歳空港から近いアksesの良さが魅力。適度な流れ、ちょうどいい瀬。

そんな事があり、私も含め千歳川ファンは多い気がしています。



— は橋  
● は注意箇所

第一ウサクマイ橋  
usakumai bridge

流れの外側には寄らない  
倒木注意

倒木注意

魚道  
横を向かないように注意。

中州に吸い込まれやすい。  
すぐ下流の木にも注意

蛇籠の瀬

高速道路  
下流は釣り人が増える

※木に釣り針・ルアーの恐れあり

小さな瀬あり

千歳スポーツセンター  
sports center